

平成21年度 尾瀬傷病事故統計

(尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター対応記録等から)



(防災ヘリのピックアップ地点まで傷病者を搬送、2009年6月、燧ヶ岳)

平成21年11月

財団法人 尾瀬保護財団

目 次

1	入山者数の状況	1
2	傷病事故の発生状況	2
(1)	年別発生状況	2
(2)	地区別発生状況	2
(3)	原因別発生状況	3
(4)	シーズン別発生状況	3
(5)	月別発生状況	4
(6)	年齢別・男女別発生状況	4
(7)	傷病者の居住地別発生状況	5
(8)	グループ人数別発生状況	5
(9)	傷病事故の通報状況	6
3	救助活動	6
(1)	救助隊出動状況	6
(2)	ヘリコプター活用状況	7
4	その他の重大事故（聞き取り）	7

（参考：尾瀬国立公園のAED設置場所）

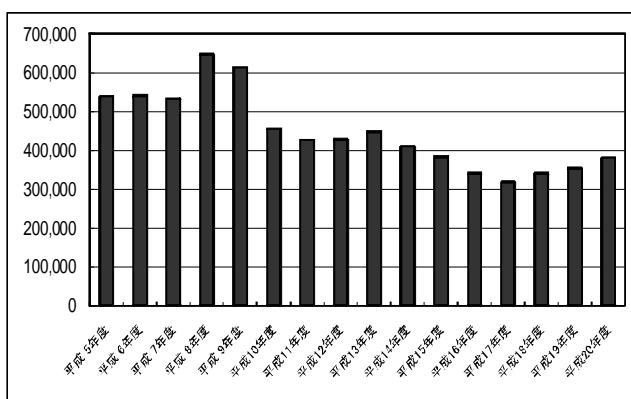
（参考：尾瀬国立公園の救助体制）

1 入山者数の状況

尾瀬が利用できる季節は道路開通後であり、おおよそ5月大型連休後から10月末までであるが、同期間に環境省が各登山口に入山者数カウントセンサーを設置し、年間の尾瀬入山者数を計測している。この結果によれば、尾瀬の入山者数は平成2年度から平成7年度まで50万人台前半で推移し、平成8、9年度にはテレビ等マスコミでの頻繁な尾瀬の紹介により60万人台前半に増加した。こうした利用者数の増加により、尾瀬の生態系への影響が懸念されたが、平成10年度には景気低迷と週末の悪天候から入山者数は約46万人に減少し、平成14年度まで40万人台で推移し、平成17年度には平成元年からの計測以来最低の約31万8千人となった。また平成20年度は尾瀬国立公園の拡張エリアを含めての数値だが、平成17年度比で約20.1%増の約38万2千人となり平成18年度以降、微増傾向を示している。

年度	入山者数 (人)	対前年比 (%)
平成元年	467,090	
平成2年	505,840	108.3
平成3年	515,090	101.8
平成4年	539,790	104.8
平成5年	540,264	100.1
平成6年	542,058	100.3
平成7年	534,196	98.5
平成8年	647,523	121.2
平成9年	614,317	94.9
平成10年	455,409	74.1
平成11年	425,807	93.5
平成12年	428,446	100.6
平成13年	448,041	104.6
平成14年	409,942	91.5
平成15年	384,251	93.7
平成16年	341,558	88.9
平成17年	317,847	93.1
平成18年	341,369	107.4
平成19年	354,901	104.0
平成20年	381,700	107.6
平成21年	環境省未発表	

(平成21年11月17日現在)



尾瀬の入山者数の推移 (環境省のデータから作成)

2 傷病事故の発生状況

(1) 年別発生状況

平成21年度に尾瀬保護財団が管理する尾瀬山の鼻ビジターセンター（群馬県より管理受託）、尾瀬沼ビジターセンター（環境省より管理受託）職員が出動した傷病事故は86件で、過去最多であった平成19年度に次いで過去二番目に多い発生件数となった。

年度	区分	発生件数 (件)	遭難者内訳			
			死亡	行方不明	負傷	その他
8年度		16	0	0	16	0
9年度		33	2	0	31	0
10年度		49	4	0	45	0
11年度		55	1	0	54	0
12年度		70	2	0	68	0
13年度		46	0	0	46	0
14年度		51	2	0	49	0
15年度		33	1	0	32	0
16年度		46	1	0	45	0
17年度		59	0	0	59	0
18年度		80	3	0	77	0
19年度		109	1	0	94	14
20年度		85	1	0	73	11
21年度		86	1	0	70	15

(2) 地区別発生状況

地区別では鳩待峠～山ノ鼻、尾瀬ヶ原、大江湿原～尾瀬沼北岸の順で多く発生しており、昨年と同様に鳩待峠～山ノ鼻と尾瀬ヶ原で事故が目立った。

地区	区分	発生件数 (件)	発生比率 (%)	遭難者内訳				(参考) 平20年度
				死亡	行方不明	負傷	その他	
鳩待峠～山ノ鼻(VC周辺含)		37	43.0			33	4	30
尾瀬ヶ原(研究見本園含)		28	32.6			23	5	18
大江湿原～尾瀬沼北岸(VC周辺含)		6	7.0	1		4	1	10
三平下～大江湿原		3	3.5			2	1	3
三平下～尾瀬沼南岸		1	1.2			1		4
沼山峠～大江湿原		2	2.3			2		2
大清水～尾瀬沼		1	1.2			1		0
沼尻～見晴		1	1.2			1		3
見晴～御池(平滑ノ滝、三条ノ滝含)			0.0					0
至仏山			0.0					1
燧ヶ岳		1	1.2			1		8
アヤマ平			0.0					1
その他		1	1.2				1	5
不明		5	5.8			2	3	0
合計		86	100.0	1	0	70	15	85

(3) 原因別発生状況

傷病事故に至った原因では、木道での転倒や転落による事故が67件と圧倒的に多く、全体の77.9%を占めており、木道整備区間が多い尾瀬国立公園の特徴を示している。原因は雨や霜で滑った、段差やかすがいなどにつまずいた、写真撮影や景色を眺めていて足を踏み外した等様々だが、平坦な道路と違い、ちょっとした気の緩みが大きな事故にもつながりかねない。また、病気や疲労・低体温などで歩行困難になる事例も少なからず見受けられるが、日常生活での体調管理や、日帰りでの強行軍の行程に原因がある場合も多く、ゆとりをもった行動と装備は不可欠である。

その他の原因としては、虫さされ、休憩ベンチに座っているのトゲ刺ささり、頭痛等となっている。

なお、今シーズン中にビジターセンターに配備されたAEDを使用したのは1件のみだった。

原因	区分	発生 件数 (件)	遭難者内訳			(参考) 平20年度	
			死亡	行方不明	負傷		
					自力下山		搬送
木道上の転倒		67			58	9	60
歩道上の転倒		3			2	1	7
病気		4	1		2	1	5
疲労・低体温		4			4		8
落石							0
道に迷い							0
雪崩・雪渓崩落							0
落雷							0
徒渉失敗							0
その他		7			6	1	4
不明		1			1		1
合計		86	1	0	73	12	85

(4) シーズン別発生状況

今年度は秋山シーズンの発生件数が最も多く、例年の傾向とは異なっている。特に今シーズンは9月下旬のシルバーウィークでの入山者数増や、体育の日の頃にあった降霜が木道上での転倒を誘発したこと等により、搬送に至る重度な傷病事故が多くなったと思われる。

シーズン	区分	発生 件数 (件)	遭難者			(参考) 平20年度	
			死亡	行方 不明	負傷		
					自力下山		搬送
春山(4・5・6月)		35			31	4	36
夏山(7・8月)		21	1		18	2	33
秋山(9・10・11月)		30			24	6	16
合計		86	1	0	73	12	85

(5) 月別発生状況

月別では6月の発生件数が24件(27.9%)と最も多く、次いで10月(17件、19.8%)となっている。6月の発生件数は入山者数に比例しているだけでなく、軽装や無理な行程などによる、木道上での転倒・転落による負傷が原因となっていると考えられる。

シーズン	区分	発生 件数 (件)	遭難者内訳				(参考) 平20年度
			死亡	行方 不明	負傷		
				自力下山	搬送		
4月							0
5月		11			10	1	8
6月		24			21	3	28
7月		10			8	2	28
8月		11	1		10		5
9月		13			12	1	5
10月		17			12	5	11
11月							0
合計		86	1	0	73	12	85

(6) 年齢別・男女別発生状況

年齢別は、40歳未満が11.6%、40歳以上が82.6%と、中高年の傷病事故の割合が圧倒的に高い。また、男女共に50代、60代の事故が目立ち、この年代は救助隊によって搬送される重傷のケースも多い。男女別では女性が6割弱で若干女性が多い。

シーズン	区分	発生 件数 (件)	男性					比率 (%)	女性					比率 (%)	男女 計 (%)	(参考) 平20 年度
			死亡	行方 不明	負傷		合計		死亡	行方 不明	負傷		合計			
				自力 下山	搬送			死亡	行方 不明	自力 下山	搬送					
20歳未満		4			3	1	4						0			
20代		3			1		1	5.8			1	1	2	5.8	11.6	
30代		3					0			3			3			
40代		8			5	1	6			2			2			
50代		21			3	2	5	37.2			15	1	16	45.3	82.6	
60代		32			13	3	16			13	3		16		76.5	
70歳以上		10			5		5		1	4			5			
不明		5			1		1	1.2			4		4	4.7	5.8	
合計		86	0	0	31	7	38	44.2	1	0	42	5	48	55.8	100.0	
比率			0	0	36.0	8.1	44.2		1.2	0	48.8	5.8	55.8			

(7) 傷病者の居住地別発生状況

昨年と同様に、東京都・神奈川県を中心とした関東圏が大半を占めている。近いために気軽な登山と油断してしまうことが原因とも考えられ、時間や体力を考慮した計画と事前準備が必要である。

区分	遭難者内訳				合計	(参考) 平20 年度
	死亡	行方 不明	負傷			
			自力 下山	搬送		
都道府県						
青森県					0	1
岩手県			1		1	0
宮城県			1		1	1
秋田県			1		1	0
福島県	1		1		2	3
茨城県			1		1	4
栃木県			1		1	5
群馬県			4	2	6	2
埼玉県			11	3	14	9
千葉県			5		5	4
東京都			17	3	20	19
神奈川県			12	3	15	14
新潟県			2		2	1
富山県					0	2
石川県					0	1
長野県			1		1	2
静岡県			1		1	0
愛知県			1		1	1
滋賀県			1		1	0
京都府			2		2	1
大阪府			1	1	2	3
兵庫県			2		2	3
島根県			1		1	0
岡山県			1		1	0
広島県			1		1	0
佐賀県					0	1
沖縄県					0	1
不明			4		4	7
合計	1	0	73	12	86	85

(8) グループ人数別発生状況

今年度は2人以上の個人旅行中の事故発生件数が最も多く、搬送を伴う重度な事故も7件と多い。一方、単独行の傷病事故は昨年度と比較し、8.5ポイント減少した。

しかし傷病事故発生時に手当やレスキューを行うのは、本人や同行者となってしまうため、重度な傷病事故の場合にはセルフレスキューが困難であることから、単独行は十分な注意が必要である。

区分 形態	発生 件数 (件)	遭難者				比率 (%)	(参考) 平20 年度
		死亡	行方 不明	負傷			
				自力 下山	搬送		
単独	22			21	1	25.6	34.1
グループ	38	1		30	7	44.2	28.2
ツアー	16			12	4	18.6	25.9
不明	10			10		11.6	11.8
合計	86	1	0	73	12	100.0	100.0

(9) 傷病事故の通報状況

通報の7割以上は、通報者がビジターセンターへ来所して口頭で行っている。傷病事故が発生した場合、携帯電話の通話エリア圏外であることの多い尾瀬では、直近の有人施設（ビジターセンターや山小屋）に駆け込む必要があるため、このような結果となったと思われる。また、尾瀬沼ヒュッテや尾瀬ロッジは、地元村の救助隊現地事務局であるため、ここからビジターセンターへ連絡が入る事もある。

なお、尾瀬沼地区の山小屋やビジターセンターには、救助隊用の簡易無線が配備されているため、近隣の山小屋に駆け込まれた場合でも、迅速に救助活動を開始できるようになっている。下表の、「その他無線」で「山小屋・救助隊」がこれにあたる。

通報方法	通報者						合計	比率 (%)	(参考) 平20年度
	本人	家族	同行者	他人	山小屋救助隊	不明			
口頭	38	8	10	3	4	2	65	75.6	90.6
携帯電話							0	0.0	0.0
電話							0	0.0	3.5
アマチュア無線							0	0.0	0.0
その他無線					4		4	4.7	2.4
不明						17	17	19.8	3.5
合計	38	8	10	3	8	19	86	100.0	100.0
比率	44.2	9.3	11.6	3.5	9.3	22.1	100.0		

3 救助活動

(1) 傷病者対応時の出動状況

発生件数では過去2番目に多く、その全てにビジターセンターが対応した。担架搬送の場合には、ビジターセンター職員は救助隊の臨時隊員としても出動している。傷病対応は複数の機関が協力して活動するため、発生件数よりも出動回数が多くなっている。

年度	出動区分	消防	救助隊	ビジターセンター	一般	合計	発生件数 (件)
平成8年度		2	4	12	0	18	16
平成9年度		12	20	10	0	42	33
平成10年度		8	33	16	0	57	49
平成11年度		9	28	27	0	64	55
平成12年度		11	18	45	0	74	70
平成13年度		9	21	22	0	52	46
平成14年度		9	14	31	0	54	51
平成15年度		8	10	19	0	37	33
平成16年度						0	46
平成17年度		16	12	35	0	63	59
平成18年度		17	22	77	0	116	80
平成19年度		10	18	106	2	136	109
平成20年度		15	12	68	0	95	85
平成21年度		16	18	86	1	121	86

(2) ヘリコプター活用状況

傷病事故 86 件のうち 9 件でヘリコプターを依頼し、9 人を搬送した。出動は尾瀬沼が 7 件、山ノ鼻が 2 件で尾瀬沼へのヘリコプター出動が多かった。

年度	出動区分	依頼 件数	負傷者 救助	病人等 救助	行方不明 捜索	遺体 収容	収容人数 合計
平成 8 年度		2	1	1	0	0	2
平成 9 年度		5	3	1	1	0	5
平成 10 年度		3	3	0	0	0	3
平成 11 年度		5	5	0	0	0	5
平成 12 年度		7	5	1	1	0	7
平成 13 年度		6	6	0	0	0	6
平成 14 年度		6	4	1	1	0	6
平成 15 年度		6	4	1	0	0	5
平成 16 年度		7	7	0	0	0	7
平成 17 年度		12	8	4	0	0	12
平成 18 年度		8	3	3	0	2	8
平成 19 年度		11	6	4	0	0	10
平成 20 年度		13	10	3	0	0	13
平成 21 年度		9	7	2	0	0	9
合計		100	72	21	3	2	98

4 その他の重大事故（聞き取り）

（道迷い、死亡）

5月3日（日）から三平峠付近で行方不明になっていた横浜市の男性が、6日（水）に三平峠付近の登山道から400～500m離れた斜面で遺体で発見された。

（心停止、死亡）

6月21日（日）に鳩待峠から戸倉へ下る観光バス内で男性が意識不明となり、鳩待峠行バス連絡所にて同行者がCPR、救急車が到着してAEDで対応し、病院へ搬送されたが死亡が確認された。

（心停止、死亡）

8月7日（金）に十二曲り付近で男性が意識不明となり、病院へ搬送後、死亡が確認された。

（心停止、死亡）

8月12日（水）に尾瀬ヶ原の山小屋を出発した男性が兔田代で意識不明となり、元湯山荘からAEDを持って行き対応したが、病院へ搬送後、死亡が確認された。

（意識不明、回復）

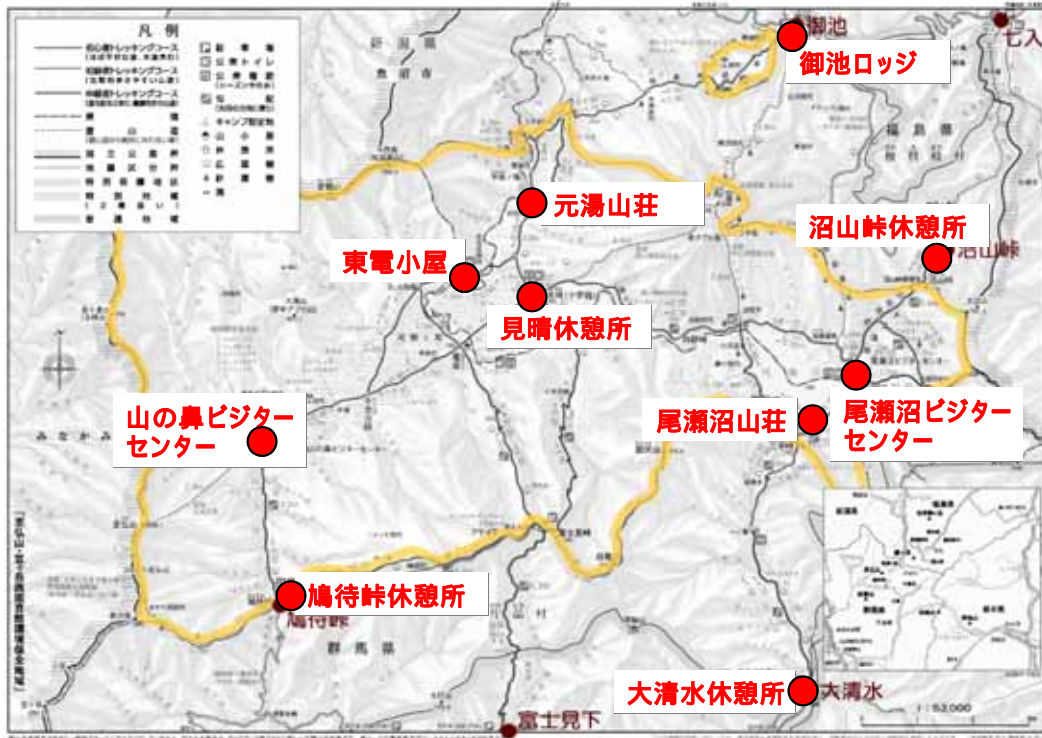
8月19日（水）に沼山峠バス停を出発した男性が意識不明となり、沼山峠休憩所からAEDを持って行き対応したが通電せず。その後、病院へ搬送され回復し、退院するに至った。

（心停止、蘇生）

9月5日（土）に福島市の男性が燧ヶ岳から下山後、御池で心停止となり、御池休憩所職員がAEDで対応し、蘇生した。

(参考：尾瀬国立公園のAED設置場所)

●**檜枝岐村内**：檜枝岐診療所、東雲館、アルザ尾瀬の郷など ●**小沢平** ●**湯ノ花周辺**：館岩会館、愛輝診療所など



●**戸倉**：尾瀬高原ホテル

(参考：尾瀬国立公園の救助体制)

